

## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2929 号	氏名	佐々木 潤
審査担当者	主査	石竹 達也	(印)
	副主査	谷原 真一	(印)
	副主査	梅野 博仁	(印)
主論文題目: Adherence barriers to inhaled medicines in Japanese older patients with asthma evaluated using the “Adherence Starts with Knowledge 20” (ASK-20) questionnaire. (ASK-20 質問票を用いた日本人高齢者ぜん息患者の吸入アドヒアランスの障壁についての検討)			

### 審査結果の要旨 (意見)

本研究は、日本人の気管支ぜん息患者 (n=364) を対象に、年齢の違いに焦点を当てて吸入薬アドヒアランスに対する独立障壁を検討するために、Adherence Starts with Knowledge 20 (ASK-20) 質問票を用いて多施設から収集したデータを分析した臨床研究である。年齢を高齢群と若年群に分け、総 ASK-20 点数や総障壁点数だけでなく個別の項目の違いについて詳細な検討を行うことで、年齢特性の違いによる吸入薬アドヒアランスの障壁を明らかにした。これは今後の吸入薬アドヒアランス改善に向けた年齢別の薬物教育に生かせる非常に有用な知見を提供しており、学位の授与に値するものと評価した。今後はさらに、個別の薬物教育に必要な患者の社会的因子に着目した研究やぜん息発作の変化をアウトカムとして、ASK-20 との関連を検討する研究および ASK-20 のカットオフ値への研究へと発展することが大いに期待される。

### 論文要旨

日本人の成人ぜん息の高齢患者における吸入薬アドヒアランスの障壁を若年患者と比較した。251 名の高齢患者と 113 名の若年患者を対象に、“Adherence Starts with Knowledge 20” (ASK-20) 質問票を用いて、吸入薬アドヒアランスの障壁を検討した。高齢患者は若年患者に比較して吸入薬アドヒアランスが良かった。高齢患者 (オッズ比 [95%CI]) は、「自分の担当医師や看護師と自分と話し合っ自分の吸入薬について決断する (2.9 [1.3-6.6])」が吸入薬アドヒアランスの障壁因子であると感じている。一方、若年患者は、「お酒を飲むや飲んだ後 (3.9 [1.0-15.1])」や「吸入回数を増やしたり、減らしたり (2.3 [1.3-4.1])」が障壁であると考えていた。高齢かつ低吸入薬アドヒアランスの患者は、「単純に吸入薬を忘れる (4.4 [1.8-11.1])」が障壁になっていた。高齢でも若年患者でも吸入薬アドヒアランスが悪い患者は良い患者に比較して、総 ASK-20 点数および総障壁点数は有意に高かった。これらの結果はおそらく吸収指導における個別化教育に有益であると考えられた。